



高齢者懇親誕生会



8月15日(日)第26回高齢者懇親・誕生会が行われ約80名の参加があった。

県人先輩への1分間の黙祷、千田会長の県人会中間報告や今後の予定、方向性など、田口信二顧問の挨拶、高橋昭二郎理事の乾杯で昼食会に入った。

会員自慢の持ち寄り料理に金宝丸よりの茹で蟹・蟹身のサラダ、刺し身、果物などが加えられ豪華な料理が並んだ。青年部により3回ビンゴが行われ、JICA派遣青年ボランティアの及川さおりさんの三味線伴奏で民謡を歌ったり、独演などが行われ年配者には三味線演奏が懐かしかったようです。

また岩手日報に掲載された誰にでも出来る「サン体操」のマニュアルが配られた。続いて5月6月7月8月生まれの誕生祝が行われ心ばかりの記念品が贈られた。カラオケ愛好者も存分自慢の歌で大いに盛り上がり、会員皆さんも満足し楽しい親睦の会でした。会場には日伯児童の書画も展示された。

※ 日本ブラジル協会から研修で派遣されている金谷はなえさん(大東町出身)も加わり、旅行業務の傍ら研修テーマ「移民」を調べたいとの事で協力する事になりました。



児童作品の交換交流

県人会では、昨年の「日本まつり」に母県花巻市の児童作品(絵画・書道)を展示しました。(同作品はJICAボランティアの和美さんに託しパ州パラグアイの学校に寄贈され役立てて頂いた)

今年は金ヶ崎町に書画の提供をお願いし「まつり」に展示しました。同作品はコニャール日本語学校作品(JICAボランティアの及川さんに仲介して頂き提供頂いた)と共に先の高齢者懇親会にも展示しました。

子供たちの作品がこれからの「交換交流」に繋がればと、日本の作品をコニャール学校へ、ブラジルの作品を金ヶ崎町へと贈りました。町では早速10月30日～11月3日に開かれる「町民芸術文化祭」にて紹介し、その後各生涯教育センターや各小学校でも展示を考えたいと希望がありました。



お知らせ

☆ 10月17日(日)臨時総会を行います。
議題は、定款改正です。(新民法2002年1月10日付け法令40.106号にもとずいた改正)
第一次招集 午前9時30分
第二次招集 午前10時
※ 午後からは、親睦交流会を行います。
毎度の事で申し訳ありませんが、会員皆さんの持ち寄りをお願い致します。その他県人会で用意。

☆「餃子(ギョウザ)と春巻(ハルマキ)づくり」講習・試食会
日時 9月19日(日)午前10時より
会費は実費 誰でも参加出来ます。要申込み。

☆ 10月10日(日)午前9時より、第21回東北6県・北海道親睦演芸祭が北海道協会(Rua Joaquim Távora, 605)にて行われます。

☆ 10月24日(日) 家族慰安親睦ピクニックを行います。場所はモジ市のシチオ佐川です。
※ 場合によりガロンデシヤ見学や、ミニ運動会を加えたいと思います。※ 交通 バスを一台用意致します(要申込み) 費用10レアル ※ 自家用車の方は地図を参照下さい ※ 食事は各自弁当をお願いします。県人会でシュラスコ、飲み物等を用意

◎ 日本の小泉首相が国連総会への途次9月14日来伯します。16日はルラ大統領と会談。

届いた手紙

撮影中のNHKドラマ「ハルとナツ・届かなかった手紙」を地で行くようなブラジル・日本と別れ別れになった友人。長い空白(39年)の末、文通を再開したが、友は晩年になり病に倒れアルツハイマーとなった。この一文は友を救いたい慰めになればと「届けられない手紙」が県人会へ寄せられた。

その人はパラナ州の苦米地^{くまいち}静子^{しずこ}さん(90歳、花巻市出身)。友は矢巾町^{やひんち}の菊池^{きくち}禮^{れい}さん。苦米地さんは空白を埋めるように菊池さんへ手紙を書き続けた。

その手紙集には、別れから渡航、そして女性が体験した移住・開拓、独立と細かく書かれていた。その手紙集が吉田恭子^{よし た きょうこ}さん(盛岡在)の手により「良い思い出は温めて」として一冊の本として皆さんに紹介され読まれた事は記憶に新しい事と思います。



1930年6月城南小学校の恩師佐藤チョウ先生の告別式が水沢市で行われた
前列左から2人目筆者 後列中央菊池禮

晩年を病に 苦しむ友・禮さんへ

2004年8月11日 苦米地 静子 記



私には菊池禮さんという小学校からの親友が日本に居ます。生まれは岩手県紫波郡徳田村(戦後は徳田町)家は紫波郡切っつの素封家。明治、大正の時代には貴族院議員を代々勤め、郡下の信望を集めた名家の長女として生まれた人です。

小学5年の時、故郷の田舎から盛岡の城南小学校に転校して来て、私と同じクラスになりました。

すぐ仲良しになったけど、禮さんは私とは何から何まで大違いで学校の成績は抜群、続いて器量容姿これも抜群、気さくな性で愛嬌よく、その上運動は

万端で美声の持ち主、何に向かっても積極的な努力家、実に素晴らしい人でした。でも、私達が机を並べたのは僅か3年足らずで、私は家の都合で故郷花巻に帰り学校は別々になりました。

卒業後、禮さんは故郷に戻り養子を迎えて家を継ぎ、私は日本を離れてブラジルに来てしまいました。

渡伯してから私は手紙どころではない無我夢中の生活が続き、その上に怠慢もあり40年近い空白を作っていました。

そして禮さんの努力によって私達の文通が再開してから知り得た事は、あの幸せな禮さんにもさまざまな不幸や艱難が続いたようで、6人の子供さんのうち長男と次女を病気で失い、終戦間もなく生まれた次男は母胎の衰弱の為、心身弱く育ち又戦後の農地改革で広大な土地は全て政府に取られ、僅かな土地を守り乍らご主人は教員を続けられたようです。

そして家事に余暇が出来たころには、禮さんは地域の為次々と大変貢献をしております。即ち全国育成会評議員、岩手育成会副会長、岩手県精神薄弱者相談員、民生児童委員、また矢巾町民生委員、矢巾町社会教育委員などのお役目をこなしたようで、その頃は禮さんにとって最も充実した幸せな日々だったろうと思われます。更に禮さんはその余暇に偉大な著述もしております。

それは「天王朝族の系譜」、天王は禮さんの生家の屋号で、その十代300年余の歴史を禮さんは10年の歳月をかけて緻密に調べ上げて出版したもので(170ページ、1983年)禮さんならではの尊い努力の結晶です。また1985年には「私の歳時記」という本も上梓しました。これは、今尚田舎に残る伝統の習慣や、昔なつかしい風趣などを1年余岩手のラジオを通して禮さんが語ったものを本に成したもので、余人の真似の出来ない貴重なものです。

ところが運命は実に残酷です。そうした順風満帆の禮さんの目の前に突然の落とし穴が大きな口をあけたのです。今から15年前(1985年5月)僅かの不注意から車にはねられ腰の骨を傷め、長い長い入院加療の末やっと歩けるようになりました。それも老人車という乳母車のようなものを押して休み休み、30分程度戸外を歩くので、その頃まで私達の文通も順調で、禮さん得意の短歌も書き送ってくれました。

そして10年たった1999年3月、禮さんは自宅で転び前と同じ場所を更に傷めてしまいました。又しても入院治療6ヶ月続けたのに立つ事も歩く事も出来なくなり、病院の付属施設に移され殆ど寝たきり、食事は車椅子に乗せてもらい食堂で皆と一緒にという生活になりました。

その頃から好きだった読書もあまりしなくなり短歌もあまり詠まなくなったようです。そのうえ手が震えて字が書けなくなり、私への手紙は途絶え文通は今日まで一方通行になってしまいました。

腰の骨の損傷は脊髄にも及んだものか、手の震えだけでなく声も出難くなるなど、さまざまな障害が出て来て無気力状態になり、施設から又病院へ移されました。禮さんの病状を今までは息子さんや娘さんが時々私に知らせて下さったけど、此の頃はお聞きしても余り書いてくれません。母上の惨めな姿を書くのが辛いのでしょう。

去年の暮れ頃、禮さんを見舞いに行った別の旧友からの便りによると、禮さんには遂に惚けまで加わり対談中始終ニコニコしたけれど、旧友の顔を帰る頃やっと思ひ出したようだったと書いてありました。

あの利発活発な禮さんの残酷な晩年を思い、私は声を出して泣きました。どんな病気にも治るといふ光があるのに、禮さんにはそれすら許されず、ただ暗黒あるのみ、どんなに医学が進んでも、どんな名医が現れても禮さんを救う事は出来ません。主治医も肉親の人達もただ手を束ねて消え細る灯をじっと見つめるだけです。

無能な私がこのように無事永らえて、あの禮さんが何故・・・何の為に・・・？。私は激しい憤りさえ覚えつつ「せめて、今日一日を安らかに」と禮さんの為に祈るのみです。（原文のまま）

☆ この手紙は12日受信。15日、苫米地さんの手紙を吉田さんへ打信。17日、吉田さんから肺炎を併発し危篤状態との返信、苫米地さんへ知らせる。19日早朝、菊池禮さんには友の願いも虚しく天命を全う永眠。苫米地さんに連絡。葬儀は21日と決まり吉田さんが家族ぐるみの交際や本の出版関係で弔辞を頼まれたとの事。吉田さんはきっと亡くなれた禮さんの霊前へ苫米地さんの気持ちと手紙を「届けて」くれた事でしょう。合 掌

※ 尚、葬儀後、吉田さんは苫米地様の手紙を神戸の移住資料室へ寄贈して頂くよう、子息の礼司様に話され、諸々の整理がつき次第準備されとの事。

手紙は貴重な移住資料として後世まで保存して貰える事でしょう。と吉田さんからの連絡。

日本館 50 年を祝う



（50年の風格ある日本館）

サンパウロ市政400周年記念イピラプエラ公園設営に伴い、日系人は日本政府の協力を仰ぎ市へ桂離宮風の「日本館」を作り贈った。

館は日本風庭園、池に錦鯉が泳ぎ、文化品も展示され茶室もあり、たまにはお茶の会も開かれる。

今年は丁度サンパウロ創立450年で、日本館も50年の節目を迎え、8月14日関係者を迎え日本館50周年を祝った。同館は広大な池のほとりにあり、近くには「日本移民・先没者慰霊碑」もある。

転ばぬ先の予防体操

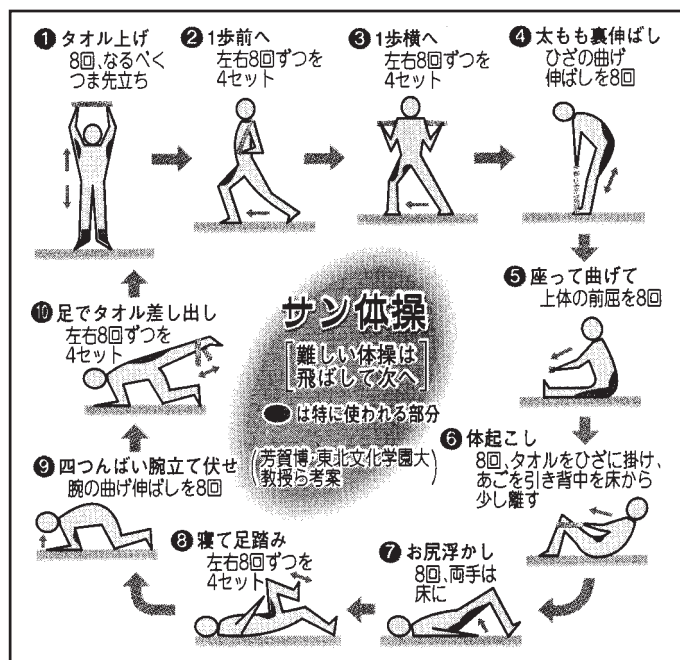
（岩手日報より 27-07-04）

高齢者自身がアイデア「サン体操」

高齢者が寝たきりになる原因の1割以上は転倒だ。転倒の予防には筋力の効果があるが、あまり専門的な運動は高齢者に難しく長続きしない。宮城県三本木町では、高齢者自身が参加して体操を作り、地域ぐるみで転倒予防に効果を挙げている。

この体操は、トレーニングに専門の機器などはいらず、使うのは「タオル」一枚だけ。転倒予防に効果がある筋肉を強くしたり柔軟性を向上させる十種類の運動が基本だが難しいのは飛ばし出来るものだけでも良い。足腰が弱い人が座ったまま出来る体操や高度な体操も考案された。

寝たきりになる原因で、転倒は脳血管障害、高齢による衰弱に次いで三番目。また転倒を経験すると大きな怪我がなくても自宅にこもりがちになり、心身に様々な悪影響がある。特に75歳以上の後期高齢者の転倒予防に役立てて頂きたい。誰にも出来そうで行ってみましょう。



県人会の動き（8月）

- 1日 定款改正特別協議会開催。
- 2日 ベルギーの岩船氏柔道着について来館。
- ※ 8月度定例役員会の通知を発送。※ 佐々木貫一さんより図書寄贈あり。
- 3日 第7回日本まつり委員会反省会へ千田会長出席。高橋カルロスさんも出席。
- 5日 多田マウロ君作成のポ語会報受領。※ 会報第119号の原稿を印刷所へ持参。※ 金ヶ崎町三ヶ尻だより受信。
- 6日 <移動> 県国際交流協会和美宏幸常任理事は県国民健康保険団体連合会専務理事に4月より就任したと、和美氏よりメールあり。※ 高橋金ヶ崎町長宛て子供の書画提供のお礼状発信。
- 7日 千田会長31日に続き「日語センター」で行われている「編集スタッフ養成講座」へ出席。
- 9日 NY県人会長岩崎氏より二戸市で「酒・南部美

- 人」を製造している友人久慈浩介氏が、同酒をブラジルへ輸出するにあたり「ブラジル県人会長のコメント」を欲しい旨のメールあり。
- ※ 夜、久慈氏へ「南部美人」の情報提供をと文書発信。折り返し久慈氏より電話あり。
- 10日 会報119号ニッケイグラフィックより届く。
- 11日 会報119号を会員及びコリア向け306通、海外・日本向け221通発送。小金丸氏発送を手伝う。※ 千田会長県連執行部会へ出席。
- ※ 岩手の地酒「南部美人」が近々ブラジルで発売とニッケイ新聞報道。
- 12日 県より定期刊行物、いわてグラフ、銀河系いわて通信、農業普及、パングなど受領。※ パラナ州在苦米地さんより岩手の友を思う書信受信。
- 13日 岩手県人会は義理堅い「故鈴木善幸元首相」に東京と氏の出身地山田へ弔電を発信とニッケイ新聞が報道。高齢者懇親会誕生会の記事もあり。
- ※ 北海道協会で行われた県連会長会に千田会長出席。会合後日本まつり感謝会が行われた。
- 14日 日本館50周年記念式典に千田会長出席。
- ※ 太鼓指導員休暇から戻り太鼓教室再開。毎週土。
- 15日 久慈浩介氏（岩手の地酒「南部美人」蔵元）より賛助会員申込書受信。※ 定例役員会あり。議題は、東北演芸祭、和泊温泉旅行、家族慰安ビークニック、留研生募集、定款改正臨時総会など。
- ※ 第26回高齢者懇親・誕生会開催。出席80名。
- 16日 ミス着物立候補者菊池パウさん来所。祖父は故菊池辰男氏（江刺市出身）の孫、推薦書類にサイン。注 叔母は菊池悦子さん（コリアの歌手）。
- 17日 吉田恭子さんより、苦米地さんの友人菊池禮さんの近況メールあり。※ 有住氏より金ヶ崎で行われた「農業まつり＆米の日」の記事をパラグアイ県人会へ転送して欲しいと。
- 19日 吉田恭子さんより苦米地さんの友人菊池禮さんは19日早朝逝去されたとメールあり。苦米地さんに知らせる。葬儀は21日との事。※ 日本ブラジル交流協会派遣研修員金谷ハナエさん来所。戦前・戦後移民の実態をつかみたいとの事。
- ※ 県国際交流協会へ県人会育成補助金領収書と03年度事業並びに決算書、04年度事業計画、予算案などを送付。※ ニッケイ新聞 大耳小耳覧に岩手日報が賛助会員募集記事を報道した。県人会に手伝ってくれる新聞があらわれたと。
- 22日 宮崎県人会創立55周年記念、県人移住90周年記念式典が北海道交流協会で行われ、千田会長夫妻が出席。母県より80名の慶祝、参加者400名
- ※ 吉田重雄氏（賛会員）より会報受領の電話あり。
- 23日 母県庁へ初年度からの留研生調査書を発信。
- ※ 花巻市浄土宗廣隆寺住職、谷地玄雅氏（叔父は18年前亡の谷地顕融さん）は、花巻海外交流室にて伯県人会報にて苦米地さんの「農業移住を振り返って」の一部を読んだ、その続編を読みたいとのメールに続編を送る。※ 金ヶ崎高橋町長宛てブラジル児童の絵画習字などを送る。
- 24日 県連執行部会へ千田会長出席。※ 菅原圓雄氏より会報受領のハガキあり。
- 25日 金宝丸森漁労長より「蟹」を用意との電話。
- 26日 藤村副会長夫妻金宝丸訪問。
- 27日 九月度役員会案内状を発送。※ ニッケイ新聞樹海覧に県人会賛助会員募集は軌道にのったようで

あると記載あり。※ 秋田県人会で開催の県連代表者会議へ千田会長出席。

- 28日 ニッケイ新聞古杉記者より週間雑誌の寄贈あり。
- 29日 福井県人会創立50周年、北海道協会55周年祈念式典へ、千田会長夫妻、山道事務局長がそれぞれ出席。※ 吉田恭子さん（盛岡）より原稿についてメールあり。
- 30日 県連より長谷川さん（JICA派遣ボランティア）来所し、県人会活動状況調査を行う。
- 31日 金ヶ崎町役場国際交流係、千葉由佳里主事より「ブラジル児童の作品（書画）」が届いた旨のメールあり。※ 有住氏よりも同様のファックス有。

ふるさとの地酒上陸！ 「南部美人」が飲める



ニューヨークの岩崎県人会長さんから岩手の地酒「南部美人」が、ブラジルへ輸出される事になった。ついでには地元の新聞に輸出について話したところ、ブラジル県人会長のコメントを欲しいので製造元で蔵元の久慈浩介氏に連絡をとメールがあった。

二戸市で南部美人第5代蔵元の高級地酒との事。HPを開くと一族四代家族が酒造に携わっている。毎年展示会などで数々の賞を獲得している。県人酒党には願ってもない「ふるさとの味」が賞味できるニュースである。味に頼り連中？は今から待ち望んでいる。因みに「美人」は10月頃入荷予定。

☆ 会 費 納 入 者 名 (敬称略)

北村 達夫（金宝丸乗員）、岩淵 克明、
累計165名

☆ 寄 付 ・ 寄 贈 (敬称略)

佐々木 貫一（図書）、佐々木 憲輔（茶菓子）、
古杉 征己（図書）、金宝丸（蟹）

賛 助 会 員 紹 介 (7)

第37号 久慈 浩介 (Kosuke Kuji) 32歳
二戸市福岡在、(蟹) 南部美人五代目蔵元 製造部長伯
訪問計画、業界視察や観光をしたい。入会理由、要望、
N Y 岩崎県人会長の紹介。ブラジルに南部美人の輸出が始まりました。岩手の高級地酒として沢山の
方々に広めて下さい。

e-mail sake@nanbubijin.co.jp

http://www.nanbubijin.co.jp/n06staff/staff.html

- ※ 毎週木曜日婦人部は集会や色々な作業を行っております。
- ※ 太鼓教室（有料月20.00）は、毎週土曜日6時から行っております。Washington Tel 8193-8203